

・分担研究報告

1. 養育レジリエンス質問票の開発に関する調査研究

稲垣真澄

厚生労働科学研究費補助金
障害者対策総合研究事業（障害者政策総合研究事業（身体・知的等障害分野））
分担研究報告書

養育レジリエンス質問票の開発に関する調査研究

研究分担者 稲垣真澄

独）国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的障害研究部 部長

研究要旨

昨年度は発達障害をもつ母親を対象にした質的研究を行い、養育レジリエンスの構成要素を5つ（親意識、自己効力感、特徴理解、社会的支援、見通し）明らかにした。本年度はそれらの構成要素に基づき、発達障害児をもつ母親のレジリエンスを評価する養育レジリエンス質問票（parenting resilience questionnaire: PRQ）を量的研究手法により、新たに開発した。

発達障害をもつ母親424名中363名を対象にして、PRQの心理測定学的特性を検討した。因子分析の結果、16項目による3因子構造が妥当であると判断された。そして、各因子について「特徴理解」、「社会的支援」、「肯定的受容」と名付けた。さらに、PRQの各因子が保護者の抑うつ症状及び養育行動を予測する重回帰分析を実施した。特徴理解は養育行動を有意に予測した一方、社会的支援は抑うつ症状を有意に予測していた。また、肯定的受容は、抑うつ症状と養育行動の両変数を有意に予測していた。

以上の結果から、本研究で開発したPRQは、発達障害児をもつ母親において、レジリエンスを計測する尺度として適切なものであることが予想され、今後、発達障害臨床で活用できるものと予測された。

A．研究目的

自閉症スペクトラム障害（autism spectrum disorder: ASD）、注意欠如多動性障害（attention deficit hyperactive disorder: ADHD）、知的障害（intellectual disability: ID）、学習障害（learning disorder: LD）を含む発達障害児（者）の子育てには、困難が多いことが知られる^{1,2)}。定型発達児と比較して、発達障害児をもつ

母親において、うつ病のリスクが高いと報告されている³⁾。また、発達障害児は、行動上の問題を示すことが多いため、保護者から過剰で、厳しい養育行動が示されることもある^{4,5)}。

しかしながら、発達障害児をもつすべての母親が高い抑うつ症状を示して、不適切な養育を行っているわけではなく、多くの母親は子育てに良好に適応していると推測

される⁶⁾。そこで、「子育てについて良好に
適応できる要因を母親がどの程度、持って
いるのか」を計測することができれば、発
達障害児をもつ保護者全般に対する支援方
として活用できることが考えられる。

養育に良好に適応する過程は、養育レジ
リエンスとして定義することが可能である⁷⁾。昨年度、研究分担者らは質的研究の技法
を用いて、養育レジリエンスの構成要素を
明らかにした⁸⁾。本研究では、それらの構
成要素に基づき、新たに養育レジリエンス
質問票（parenting resilience
questionnaire: PRQ）を作成し、心理測定
学的特性を検証することを第一の研究目的
とした。さらに、PRQと抑うつ症状及び養
育行動の関係性を分析し、発達障害臨床場
面での活用方法について検討した。

B. 研究方法

1) 対象

国内5カ所の医療機関を受診する発達障
害児をもつ母親424名を対象とした。子ど
もの診断は、各医療機関の医師により行わ
れた。本研究では、欠損値の除外により、
母親363名のデータに基づいてPRQの心
理測定学的特性を評価し、他の尺度との関
係性を検討するために313名のデータを用
いた。

2) 質問票の開発

質的研究で生成されたモデルに基づき、
子どもとの関わり方や社会ネットワークの
構築などを尋ねる44項目の質問票を作成
した。共同研究者や発達障害臨床の専門家
による話し合いを重ね、34項目に限定した。
さらに、発達障害児をもつ母親40名を対象
にした予備調査を実施し、項目を削除・追

加し、最終的には29項目の質問票を作成し
た。各項目について、1（まったくあてはま
らない）～7（非常によくあてはまる）の七
件法で回答を求めた。

3) 他の質問票

日本版GHQ精神健康調査票12項目
版（GHQ-12）で、保護者の精神的健康度を
計測した。各項目に特有なラベルが割り振
られており、本研究では、0～3点として合
計得点を分析に用いた。尚、得点が高いほ
ど、精神的苦悩が高い（すなわち、不良で
あること）ことを示す⁹⁾。

保護者の抑うつ症状については、20項目
で構成される抑うつ尺度（the Center for
Epidemiological Studies Depression
Scale: CES-D）を用いて評価した¹⁰⁾。各項
目について0点（1週間で全くない・あつ
たとしても1日も続かない）～3点（週5
日以上）で回答を求め、20項目の合計得点
を分析に用いた。得点が高いほど、抑うつ
症状が多いことを示す。

養育尺度（parenting scale: PS）は、養
育行動を計測する尺度である¹¹⁾。その日本
語版は井澗らによって開発され、養育にお
ける「過剰反応」と「緩さ」の2因子で構
成される¹²⁾。各項目では、子どもの問題行
動とその対応方法の具体例が示されており、
効果的な対応方法（1点）と効果的でない
対応法（7点）のどちらに近い行動をとる
か、回答を求めた。本研究では、過剰反応
（10項目）の合計得点を分析に用いた。得
点が高いほど、不適切な養育行動を行って
いることを示すことになる。

子どもの行動は、Strength and
Difficulties Questionnaire（SDQ）日本語
版で評価した^{13, 14)}。各項目には、子どもの

行動が記載されており、あてはまらない(0点)～あてはまる(2点)の三件法で回答を求めた。SDQの下位尺度は、多動・不注意、情緒面、仲間関係、行為面、向社会性で構成される。向社会性以外の4尺度は、子どもの困難さを評価する項目であり、合計することで、total difficulties scoreを算出することができる。子どもの行動を表す指標として、total difficulties scoreを分析に用いた。

母親自身の情報として、年齢、最終学歴、就労状況についての記入を求めた。子どもの情報として、年齢、性、兄弟姉妹の有無、同居者の有無、属性、診断名、投薬治療の有無、投薬内容、知的能力の程度も併せて尋ねた。

4) 倫理的配慮

本研究は、国立精神・神経医療研究センター倫理委員会にて審査を受けて承認された(倫理委員会承認番号A2012-006)。予備調査において面接者は、対象の母親に対して本研究の目的について口頭で説明し、書面による同意を得た後に、半構造化面接を行った。

C. 研究結果

1) 事前解析

40%以上の参加者が、1または7を選択した3項目を分析から除外した。したがって29項目から合計26項目の解析となった。26項目の尖度は-1.29～.72であり、歪度は、-.84～3.01であった。すなわち、正規分布を想定した解析を適用できると示された。また、表1、2に本研究対象の基本属性および診断名を示す。

2) 探索的因子分析

26項目について因子分析(最尤法・promax回転)を実施した。平行分析に基づき因子数を設定した。平行分析では、実データの固有値と疑似データ1,000個の固有値の平均を比較した。その結果、4因子目で、実データの固有値が疑似データの固有値平均よりも低い値になり、3因子構造であることが示唆された。さらに、4因子構造の因子分析では、第4因子目で、 ± 0.45 以上の因子負荷量をもつ項目が2項目であった。すなわち、3因子構造を想定することが統計学的に妥当であると判断された。

さらに、3因子構造を想定した因子分析で、因子負荷量が ± 0.45 未満の10項目を削除し、残りの項目で再度因子分析を行った。3因子は、それぞれ、18%、16%、15%の分散を説明していた。最終的に各因子を「特徴理解(6項目)」、「社会的支援(6項目)」、「肯定的受容(4項目)」と名付けた。

3) 確認的因子分析

探索的因子分析の結果に基づき、各項目が対応する因子に負荷し、因子間相関を認めるモデルを確認的因子分析で検証した。その結果、適合度が十分であると判断された(CFI = .917, TLI = .902, RMSEA = .070, SRMR = .055)。

4) 内的一貫性

Cronbachの係数を、負の因子負荷量を示す項目を反転させ、算出した。特徴理解が.81、社会的支援が.83、肯定的受容が.82であり、高い内的一貫性が示された。

5) 他の尺度との関係

表3にPRQの各因子得点及び総合得点と他の尺度の相関関係を示す。PRQの各得点は、抑うつ症状と過剰反応と負の相関関係

が認められた。

さらに、PRQ の下位尺度、SDQ、GHQ-12 が PS と CES-D を予測する重回帰分析を実施した(表 4)。特徴理解と肯定的受容は PS を有意に予測した一方で、社会的支援と肯定的受容が CES-D を有意に予測した。

D . 考察

本研究では、養育レジリエンスを計測する養育レジリエンス質問票 (parenting resilience questionnaire: PRQ) を作成し、心理測定学的特性を検討した。因子分析の結果、「特徴理解」、「社会的支援」、「肯定的受容」の 3 因子構造が示された。養育レジリエンスの定義に従い、PRQ 得点は、抑うつ症状や不適切な養育行動を負に予測していた。

第 1 因子である「特徴理解」は、発達障害に関する知識や子育ての能力についての自己評価を示す尺度である。高い特徴理解得点は、不適切な養育行動を減少させていた。すなわち、子どもに対する適切な対応は、特徴理解が増加するほど導き出されるものと示唆される。

第 2 因子は、「社会的支援」であった。先行研究では、ASD 児をもつ母親において、社会的支援が不足すると、精神的健康が低下することが示されている¹⁵⁾。社会的支援は、様々な手法で評価されてきている。例えば、ネットワークの大きさ¹⁶⁾、感情¹⁶⁾、種類¹⁷⁾である。今回われわれが導き出した、PRQ の社会的支援は、様々な要素を複合的に捉えるものと想定される。

第 3 因子は、「肯定的受容」であった。この因子は、子育てに対する幸福感や母親役割の受容を反映する項目によって構成され

ている。先行研究で、肯定的受容が、知的障害児を持つ母親のリーフレミングを促すことが示されている¹⁸⁾。また、リフレミングは、ASD をもつ母親において、抑うつ症状を減少させることが示されている¹⁹⁾。したがって、肯定的受容は、子どもに関わる問題に適切に対処するための重要な要素であると考えられた。

E . 結論

本研究で新たに開発した養育レジリエンス質問票 (PRQ) は、発達障害児をもつ母親において、子育てに関わるレジリエンスを測定する尺度として適切なものであると示された。PRQ によってレジリエンスの評価が可能になり、子どもに関わる問題によって精神的健康の問題が顕在化する前に、介入することができると期待される。また、介入効果の検証などに、PRQ を用いることができるかと予測される。

研究協力者 (所属)

鈴木浩太、森山花鈴、小林朋佳、加我牧子 (国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所)

参考文献

- 1) Koegel RL, Schreibman L, Loos LM, Dirlich-Wilhelm H, Dunlap G, Robbins FR, et al. Consistent stress profiles in mothers of children with autism. *J Autism Dev Disord.* 1992; 22(2): 205-16.
- 2) Breen MJ, Barkley RA. Child psychopathology and parenting stress in girls and boys having attention

- deficit disorder with hyperactivity. *J Pediatr Psychol.* 1988; 13(2): 265-80.
- 3) Singer GH. Meta-analysis of comparative studies of depression in mothers of children with and without developmental disabilities. *Am J Ment Retard.* 2006; 111(3): 155-69.
 - 4) Harvey E, Danforth JS, Ulaszek WR, Eberhardt TL. Validity of the parenting scale for parents of children with attention-deficit/hyperactivity disorder. *Behav Res Ther.* 2001; 39(6): 731-43.
 - 5) Schieve LA, Blumberg SJ, Rice C, Visser SN, Boyle C. The relationship between autism and parenting stress. *Pediatrics.* 2007; 119 Suppl 1: S114-21.
 - 6) Hastings RP, Taunt HM. Positive perceptions in families of children with developmental disabilities. *Am J Ment Retard.* 2002; 107(2): 116-27.
 - 7) Suzuki K, Kobayashi T, Moriyama K, Kaga M, Inagaki M. A framework for resilience research in parents of children with developmental disorders. *Asian Journal of Human Services.* 2013; 5: 104-11.
 - 8) 鈴木浩太, 小林朋佳, 森山花鈴ほか: 自閉症スペクトラム障害児・者をもつ母親の養育レジリエンスの構成要素に関する質的研究. *脳と発達*: 2015; 印刷中.
 - 9) Doi Y, Minowa M. Factor structure of the 12-item General Health Questionnaire in the Japanese general adult population. *Psychiatry Clin Neurosci.* 2003; 57(4): 379-83.
 - 10) 島 悟, 鹿野達男, 北村俊則, 浅井昌弘. 新しい抑うつ性自己評価尺度について. *精神医学* 1985; 27(6): 717-723.
 - 11) Arnold DS, O'Leary SG, Wolff LS, Acker MM. The Parenting Scale: a measure of dysfunctional parenting in discipline situations. *Psychological assessment.* 1993; 5(2): 137-44.
 - 12) Itani T. [The Japanese version of the Parenting Scale: factor structure and psychometric properties]. *Shinrigaku Kenkyu.* 2010; 81(5): 446-52.
 - 13) Matsuishi T, Nagano M, Araki Y, Tanaka Y, Iwasaki M, Yamashita Y, et al. Scale properties of the Japanese version of the Strengths and Difficulties Questionnaire (SDQ): a study of infant and school children in community samples. *Brain Dev.* 2008; 30(6): 410-5.
 - 14) Goodman R, Ford T, Simmons H, Gatward R, Meltzer H. Using the Strengths and Difficulties Questionnaire (SDQ) to screen for child psychiatric disorders in a community sample. *Br J Psychiatry.* 2000; 177: 534-9.
 - 15) Boyd BA. Examining the relationship between stress and lack of social support in mothers of children with autism. *Focus Other Dev Disabl.* 2002; 17(4): 208-15.
 - 16) Smith LE, Greenberg JS, Seltzer MM. Social support and well-being at

mid-life among mothers of adolescents and adults with autism spectrum disorders. J Autism Dev Disord. 2012; 42(9): 1818-26.

- 17) Ekas NV, Lickenbrock DM, Whitman TL. Optimism, social support, and well-being in mothers of children with autism spectrum disorder. J Autism Dev Disord. 2010; 40(10): 1274-84.
- 18) Hastings RP, Allen R, McDermott K, Still D. Factors related to positive perceptions in mothers of children with intellectual disabilities. J Appl Res Intellect Disabil. 2002; 15(3): 269-75.
- 19) Hastings RP, Kovshoff H, Brown T, Ward NJ, Espinosa FD, Remington B. Coping strategies in mothers and fathers of preschool and school-age children with autism. Autism. 2005; 9(4): 377-91.

F . 研究発表

1 . 論文発表

- 1) 鈴木浩太, 小林朋佳, 森山花鈴, 加我牧子, 平谷美智夫, 渡部京太, 山下裕史朗, 林 隆, 稲垣真澄: 自閉症スペクトラム障害児・者をもつ母親の養育レジリエンスの構成要素に関する質的研究 脳と発達 印刷中.

- 2) 鈴木浩太, 小林朋佳, 稲垣真澄: 発達障害児・者をもつ保護者への支援とレジリエンス . 精神保健研究 2015; 61: 57-60.
- 3) 小林朋佳, 鈴木浩太, 森山花鈴, 加我牧子, 稲垣真澄: 発達障がい診療における保護者支援のあり方 - 母親が振り返る「子育て」の視点から - . 小児保健研究 2014; 73: 484-491.
- 4) 小林朋佳, 鈴木浩太, 森山花鈴, 加我牧子, 稲垣真澄: 発達障害診療における保護者支援のあり方 - 医師 8 名への面接結果から - . 小児保健研究 2014; 73: 737-744.
- 5) 稲垣真澄: ADHD . 発達障害研究 2014; 36: 31-35.

2 . 学会発表

- 1) 小林朋佳, 稲垣真澄, 鈴木浩太, 森山花鈴, 加我牧子: 発達障害診療における保護者支援のあり方 - 母親が振り返る「子育て」の視点から - . 第56回日本小児神経学会学術集会 静岡 2014年5月

G . 知的財産権の出願・登録状況

- 1 . 特許取得 なし
- 2 . 実用新案登録 なし
- 3 . その他 なし

表 1 本研究対象（保護者）の基本属性（N = 363）

変数	平均 (SD)/割合
年齢（28 - 54 歳）	41.58 (5.40)
大学卒業（%）	18.73
就労（%）	57.85
子どもの数（1 - 4）	2.02 (0.78)
対象児の出生順位（1 - 4）	1.44 (0.67)
対象児の年齢（3 - 18 歳）	10.18 (3.50)
対象児の診断時年齢（1 - 16 歳）	6.61 (3.17)
薬物療法（%）	55.92
対象児の父親の不在（%）	16.25

表 2 子どもの診断名 (%)

		+LD	+ID
ADHD	25.90	4.41	1.10
ASD	42.42	1.93	4.13
ADHD+ASD	26.45	5.79	1.38
LD のみ	1.93		
ID のみ	1.38		
不明	1.93		

N = 363

ADHD:注意欠如多動性障害 ASD:自閉症スペクトラム LD:学習障害
ID:知的障害

表 3 相関関係

PRQ	PS	CES-D	GHQ	SDQ
特徴理解	-.27***	-.22***	-.18**	-.07
社会的支援	-.19***	-.44***	-.39***	-.18***
肯定的受容	-.37***	-.31***	-.21***	-.13*
総得点	-.35***	-.47***	-.39***	-.18***

* < .05, ** < .01, *** < .001

PS: parenting scale (over-activity), CES-D: center for epidemiologic studies depression scale, GHQ: general health questionnaire-12, SDQ: strength and difficulties questionnaire (total difficulties score)

表 4 重回帰分析

	PS		CES-D	
	β	t	β	t
GHQ	.16	2.87**	.70	19.30***
SDQ total difficulties score	.11	2.04*	.09	2.70**
特徴理解	-.13	-2.29*	-.02	-.54
社会的支援	.00	.09	-.11	-2.96**
肯定的受容	-.27	-4.68***	-.11	-3.08**
	R ²	.20***		.67***
	Adjusted R ²	.18		.67

* < .05, ** < .01, *** < .001

PS: parenting scale (over-activity), CES-D: center for epidemiologic studies depression scale, GHQ: general health questionnaire, SDQ: strength and difficulties questionnaire